令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪府	学校名	和泉市立幸小学校

人権課題	子ども	対象学年・取り扱った教科等	３年　総合的な学習の時間、社会科	時数等	９時間

目標・人権教育のねらい	地域の様子の移り変わりや人々の生活の移り変わりを調べることから、わたしたちの生活をつくってきた人の思いにふれ、地域に誇りをもち、これから変わりゆく地域について自分たちができることを考える。
実施した内容	・1学期に町探検をしたので、それを振り返りながら、その町がどのように移り変わってきたのかを調べる。（１時間） ・移り変わりの中で団地に着目してなぜ団地が建てられたのか話を聞く。（住宅事業）　（２時間） ・どろんこ子ども会がどのようにできたのか調べる。（教育事業）　（２時間） ・これから変わるこの町について地域の人の思いを聞き自分ができることを考える。　（２時間） ・1学期の学習をふりかえりながら、町が移り変わったことでどのように子どもの権利が保障されてきたか考える。自分たちがどうやって自分の権利を維持していくか考える。（１時間） ・地域のよさを伝える。（１時間）
工夫した点	（指導上の工夫） 町の移り変わりを調べるために地理院地図を用いて、昔の街並みと、今の街並みを比べることで、団地ができたことを理解できるようにした。そのなかで、なぜ団地ができたのか疑問をもつために他の地域の航空写真も活用し、団地ができるにあたって、地域の人はどのような思いをもって活動してきたかを考えられるようにした。 また、子どもがよく行くどろんこ子ども会についてもどのようにつくられたのかを調べる活動を通して、地域の人の思いを活動によって形にし、地域の教育がつくられてきたことに子どもが出会えるようにした。 そして、これらの学習をふりかえりながら、子どもの権利があることを再確認し、どのように地域でその権利が保障されてきたのか、またそれを維持するために自分たちができることを考えるようにした。 （地域や関係機関との連携） ・地域の航空写真を比べることで、なぜ団地ができたのかという問いが子どもからでると想定されるため、地域の人から団地ができた経緯や教育への思いなどを聞き取る場を設定し、あわせてフィールドワークも行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科にて、地域の様子の移り変わりや人々の生活の移り変わりを調べることから、わたしたちの生活をつくってきた人の思いにふれ、地域に誇りをもち、これから変わりゆく地域について自分たちができることを考える。

事業成果

３～６年生の学級ではアンケートによる自由記述による質的データをもとに人権教育における子どもの課題を見出すため、取組み開始前と後に同じアンケートを行い、その分析結果を比較し取組みの課題検証を行った。

アンケート項目は次のとおりである。
１、地域のどの場所が好きですか？（どの場所がいいところと思いますか？どの場所をおすすめしたいですか？）
２、１でこたえた場所のどんなところが好きですか？（どんなところがいいとおもいますか？どんなところをおすすめしたいですか）
３、地域で暮らしている人の中に「すきだな・すごいな・話したいな・お世話になっている」という人はいますか。いる人はどんなところが「すきだな・すごいな・話したいな・お世話になっている」と思いますか。いる人だけ答えてください。

アンケート結果からの質的データ収集と分析方法については次の通りである。
　子どもが記述した内容（２・３の項目）をキーワードにしてポストイットに記述する。それをKJ法を用いて話し合い子どもの実態を見出す。取組み前と後の子どもの実態を比較し成果と課題を見出す。

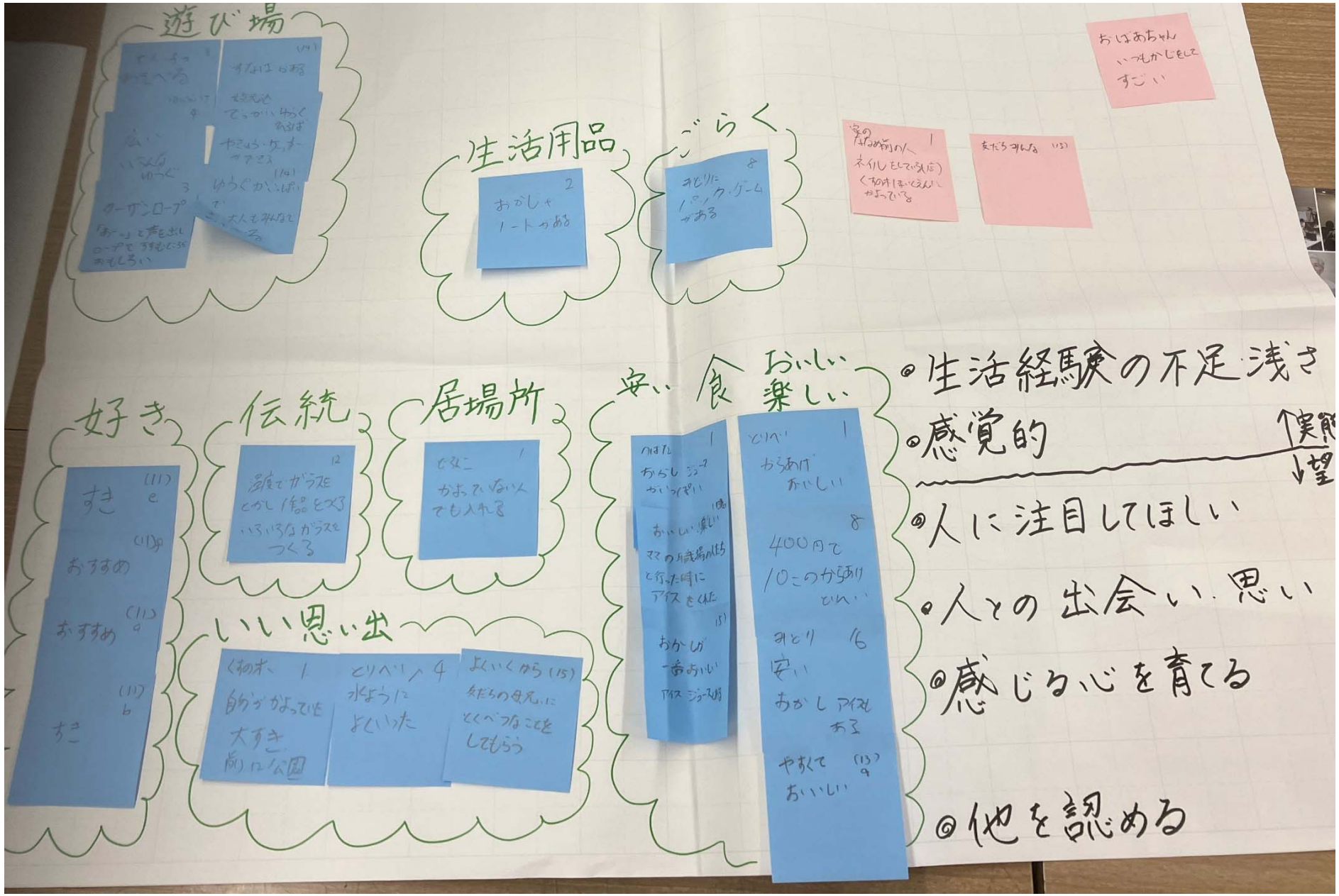
取組み開始前の結果は「別紙１」の通りである。（青：場所に関すること、ピンク：人に関すること）

取組み開始前の結果の分析では次のようなことが教職員で話し合われた。
・１学期の町探検の経験もあり、地域の場所については子どもの経験値は高まっているが、人に関する情報が出てきていない。
・人に注目してほしい。
・人との出会いや思いを通して子どもが学ぶ機会をつくりたい。
・人の思いを感じる心と人を認めることができる子どもになってほしい。

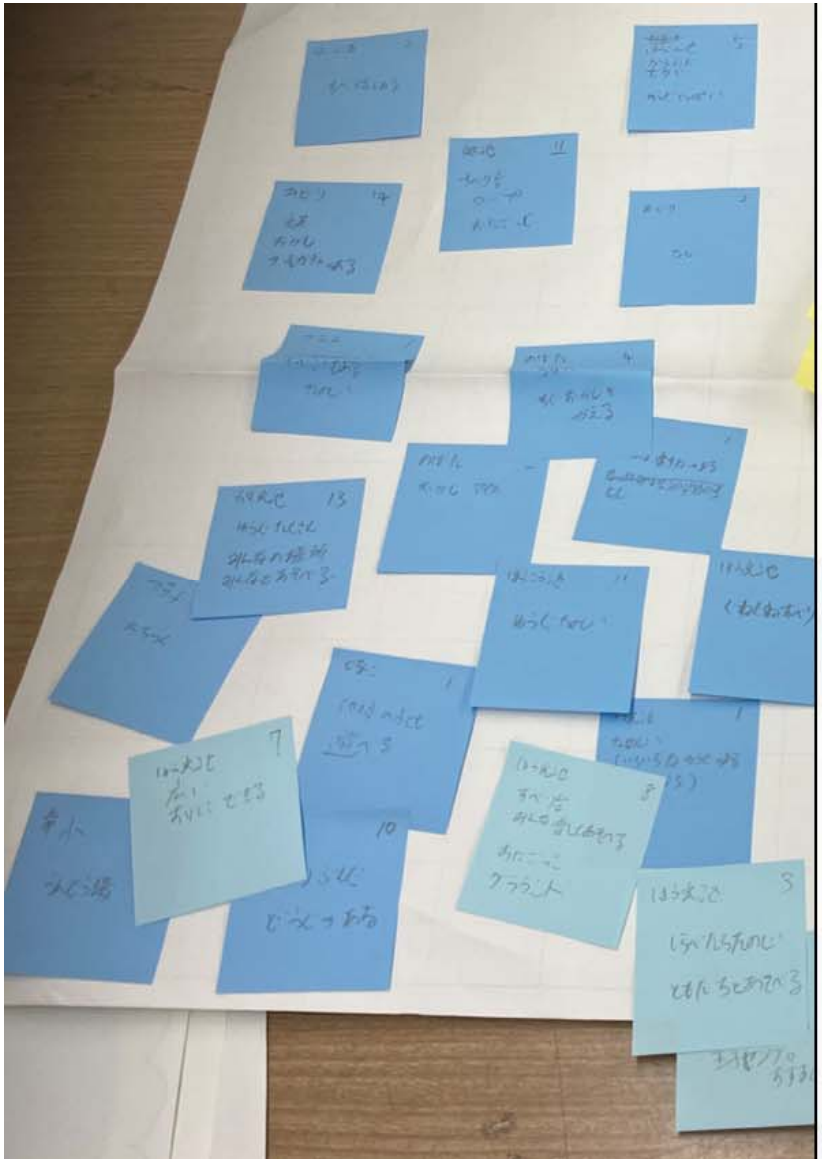
取組み開始後の結果については、アンケートの記述内容をポストイットにして貼り付けているところである。これを今後教職員で分析して取組みの課題を見出し来年度に繋げる。「別紙２」にアンケートから抽出した質的データを示す。（青：場所に関すること、黄：人に関すること）

以下は、「人」についての記述が非常にふえているところである。また、記述されている「人」は人権学習の取組みの中で出会った人についての内容が多いことがわかった。

別紙１


遊び場
生活用品
ごらく
好き
伝統
居場所
安い食
おいしい
楽しい
いい思い出
おばあちゃん
いつもかしをして
すごい
生活経験の不足浅さ
感覚的
実態
願望
人に注目してほしい
人との出会い思い
感じる心を育てる
他を認める

別紙２
（個人名ありのため網掛け）



令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪府	学校名	和泉市立幸小学校

人権課題	障がい者	対象学年・取り扱った教科等	４年　総合的な学習の時間	時数等	７時間

目標・人権教育のねらい	・人のちがい（特性、性など）を尊重できる。 ・自分とちがっても互いにとってより豊かになるように、地域の活動見学を通して、自分ができることを考える。
実施した内容	・地域でパラリンピックに出た方とシッティングバレーを行いながら交流したり、お話を聞いたりして出会う。（２時間） ・障がいを抱えている状態を体験する。（２時間） ・障がい者と共に暮らせるようになるための地域の活動に見学に行く。（２時間） ・認知症サポーターのワークショップ体験（１時間）
工夫した点	（指導上の工夫） 当事者のことを子どもたちが対等な関係性でとらえられるようにする必要がある。そのため、はじめはシッティングバレーを行いながら気さくにかかわってくださる当事者と出会う機会をつくった。そこから、地域でともにくらせる社会をめざした自立支援センターの人たちと出会い、その活動を知った。これらの出会いの中で自分が当事者とどう向き合い、社会モデルとしての「障がい」について理解を深め、自分に何ができるかを考えさせられるようにした。 （地域や関係機関との連携） 地域の自立支援センターと連携しながら学習を進める。また、地域の当事者と出会う機会をつくる。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科及び特別の教科道徳にて、基本的人権、公正・公平等について学習した。
事業成果	知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」 事業開始時：60.5%　⇒　現在72.9% 【児童の変容の分析】 　日常生活では、よくケンカをすることもあるが、ケンカをした後すぐ仲直りをしていっしょに仲間と遊べるようになった。また、遅刻をしても、「なんで遅刻をしているのか」と責めるような関わりがほとんど見られないようになった。 価値的・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」 事業開始時：81.5%　⇒　現在83.3% 【児童の変容の分析】 　地域の青年の体験談を聞くことができた。そこでは仲間の力によって自分の障害を受容できるようになった話を聞かせてもらった。子どもは自分が障害のある人とともに生きるためにできることを考えた。その後、地域の自立支援センターの活動の見学やお話を通して地域福祉について知ることができた。その時は、盆踊りに関わる利用者を紹介することはできなかったが、子どもたちは地域にいる人に関心を高めることができた。 　取組みを通して、４年生から２名盆踊りの活動に参加する子どもがふえた。 　自分とのちがいについて、学んできたことで人間関係にも変化が見られ、これまでにあまりに関わっていない子ども同士が関わるようになった。 技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる」 事業開始時：97.7%　⇒　現在100% 【児童の変容の分析】 　遅刻で学習が進んでいなかった子どもへ、ページ数を伝えたり、聞けていない指示を伝える様子があった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪府	学校名	和泉市立幸小学校

人権課題	同和問題	対象学年・取り扱った教科等	５年　総合的な学習の時間、社会科、音楽科、道徳科	時数等	８時間

目標・人権教育のねらい	皮革産業や食肉産業に関する技術や人の思いに出会い誇りに感じられるようになる。

実施した内容	・身の周りにある牛でできた製品を探し、牛のどこが材料となっているか調べる。（１時間） ・皮から革を製造する技術のすごいところを探し、そこに携わる職人の思いについて知る。（１時間） ・太鼓職人による太鼓の革の張り替え体験を行い、命や仲間の大切さについてお話を聞き、その感想を交流する。（３時間） ・人権教育教材集・資料（大阪府）の「職人の技」という教材を通して、職人の弛まぬ努力や向上心を知り、その結果生まれた技術の高さから、伝統や専門性の価値を理解する。（１時間） ・体験で革を張り替えた太鼓をつかい、盆踊りの音頭を楽しみ、保護者に披露する。（１時間） ・「うちは精肉店」の教材を通して、食肉産業に携わる人々が命と向き合い、大切にしていることを知る。（１時間）

工夫した点	（指導上の工夫） ・職人の技術の高さを感じるために体験的な学習と座学を並行しながら進めていった。 ・皮革産業に携わる人を肯定的に理解できるようにした。 （地域や関係機関との連携） ・皮革産業に携わる方から製品をいただき、実物を用いて皮と革を比べて学習した。 ・食肉産業と皮革産業に携わる方を招いて、体験の場と出会いの場を設けた。 ・地域の人を招いて、盆踊りを体験した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科にて、畜産業の学習をした。その際には本校の総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、社会科で学習したことを振り返りながら人権学習を進めた。

事業成果

知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」
事業開始時：60.5%　⇒　現在72.9%
【児童の変容の分析】
　日常生活では、よくケンカをしていた子ども同士が、一緒に遊ぶようになったり、教室で一人でいる子どもが友だちと一緒に地域の文化を楽しんでいる姿を見ることができた。また、班活動を通して、友だちの話をよく聞くようになった児童の様子が見えた。

価値的・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」
事業開始時：81.5%　⇒　現在83.3%
【児童の変容の分析】
　地域や出会いを軸にして取組みを行ってきたことから、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」のアンケート項目について、学習後に少し上昇した。これは地域に根差した取組みを行うことで、子どもが地域について考えるきっかけになったからではないかと推察できる。しかし、地域のことを考えるようになったものの、子どもが地域のことを誇れていると言えるまでには至っていない。
　そこで、取組みを重ねることで、子どもが差別に出会ったときに「おかしい」と思えるように、それぞれの学年でプラスの出会いの質を高められるようにしたい。皮革産業や食肉産業等は子どもにとって非日常的なことである可能性が高いので、子どもの日常とつながるところから子ども発信の取組みをつくっていけるような仕掛けを考えていきたい。

技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる」
事業開始時：97.7%　⇒　現在100%
【児童の変容の分析】
　取組みの中において、さまざまな人との出会いをつくることで、人の事を考えるきっかけになったように思う。中庭にあるプラタナスの木の落ち葉を自ら進んで集めて掃除をする児童がたくさんいた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪府	学校名	和泉市立幸小学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	６年　総合的な学習の時間	時数等	１７時間

目標・人権教育のねらい	・インターネットや社会の中で偏見や差別に出遭った際に、それが偏見・差別であることを見抜くことができるようになる。 ・人権侵害にあたるかどうかに気をつけながら、情報を発信することができるようになる。
実施した内容	１学期 ・地域の成り立ちを知るフィールドワーク（３時間） ・地域の歴史に関する聞き取り学習（２時間） ・部落差別と基本的人権と子どもの権利に関する学習（１時間） ２学期 ・平和学習 ３学期 ・地域の生活をつくってきたところがどこか探す。（１時間） ・地域の生活をつくってきたところについて、調べる場所をきめる。　（１時間） ・地域に情報収集に行く。（３時間） ・様々な情報には偏見を与えることがあることを知り、発信の仕方を考える。（２時間） ・自分の生活がどのようにしてできているか考える。　（１時間） ・地域に関する情報について発信の仕方を考えて、掲示物をつくる。（３時間）
工夫した点	（指導上の工夫） 平和学習やこれまで取り組んできた部落問題学習とつなげるために、子どもが今までの学習をふりかえりながら新たな学びを展開できるようにした。平和学習では子ども一人ひとりが全校の子どもへ、自分の生活の中にある平和について語ることができた。その生活がどのようにできてきたかを考えていく機会として地域史学習を進めた。地域には多くの史跡があるので、それを調べる学習を進めた。その中で、子どもたちが１学期に行ったフィールドワークをふりかえり、自分の調べたい場所を決めた。また、その成果物を地域の銭湯で掲示し発信する機会を得た。発信する際に気を付けることを考えるために、ネット差別をとりあげ、やってはいけない発信の仕方について考える学習を実施した。また、ネットでのマイナス情報は子どもの権利条約第17条「適切な情報を得る」権利を侵害している状況であることも理解できるようにした。 （地域や関係機関との連携） 情報収集の際に、地域の人から子どもの生活とどのようにつながっているのか関連付けながらお話をしてもらうように依頼しておく。地域の銭湯に学習の成果を掲載する。 地域の人に来てもらい、ネットのなかの人権侵害について話を聞く機会をつくった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	言いたいことを発信するために必要な文章校正を国語で学んだ。 社会で学んだ内容と調べ学習を関連させられるようにした。（例：「いわゆる解放令」）

事業成果

知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」
事業開始時：60.5%　⇒　現在72.9%
【児童の変容の分析】
　休みがちの子どもや感情をコントロールすることが難しい子どものことを仲間が理解し関わる様子がある。例えば、休みがちの子どもには遅刻をしても自然に教室に入れるようにしている。また、感情をコントロールすることが難しい子どもは「先生、いま話かけるのまったほうがいいで」というように相手のことをわかり、寄り添う関わりが見られるようになった。

価値的・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」
事業開始時：81.5%　⇒　現在83.3%
【児童の変容の分析】
　地域や出会いを軸にして取組みを行ってきたことから、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」のアンケート項目について、学習後に少し上昇した。これは地域に根差した取組みを行うことで、子どもが地域について考えるきっかけになったからではないかと推察できる。しかし、地域のことを考えるようになったものの、子どもが地域のことを誇れていると言えるまでには至っていない。また、SNSでのマイナス情報の読みとりをする取組みでは、「事実であってもそのことで人を傷つける可能性がある」「事実やけれど、これはひとを傷つける言葉」であることを学んでいる発言があった。

技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる」
事業開始時：97.7%　⇒　現在100%
【児童の変容の分析】
　たてわりの活動で6年生が主に進めるが、低学年の児童によりやさしくかかわっている様子がある。たてわり掃除のときに丁寧に掃除道具の使い方を伝えている６年生の姿があった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪府	学校名	和泉市立幸小学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	４年　総合的な学習の時間	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	・人のちがい（特性、性など）を尊重できる。 ・自分とちがっても互いにとってより豊かになるように、地域の活動見学を通して、自分ができることを考える。
実施した内容	・ＳＯＧＩについて知り、さまざまな性があることについて知る。（１時間） ・自分との性のちがいについて知った時、自分にできることを考える。（１時間）
工夫した点	（指導上の工夫） 「ちがい」の学習の中で性のちがいについて学んだ。その時、SOGIをとりあげた。子どもたちはこれから自分の性について気づきはじめる。自分の性が人とちがってもいいと思えるように、活躍している人を取り上げながらSOGIについて考えた。また、仲間の性が自分と異なることに気づくことも考えられるため、その時に子どもたちが仲間のことを考えられるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	保健体育で体の変化について子どもが学ぶ機会をつくる。

事業成果

知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」
事業開始時：60.5%　⇒　現在72.9%
【児童の変容の分析】
　日常生活では、よくケンカをすることもあるが、ケンカをした後すぐ仲直りをしていっしょに仲間と遊べるようになった。また、遅刻をしても、「なんで遅刻をしているのか」と責めるような関わりがほとんど見られないようになった。

価値的・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」
事業開始時：81.5%　⇒　現在83.3%
【児童の変容の分析】
　SOGIについて説明した後、これから自分自身の性に気づく年齢になるので、周りの仲間の性について考えた。自分の性について話してくれた後に、アウティングされた時の当事者の気持ちはどうなるのかという事例をまじえて当事者のことを考える機会をつくった。人権課題としては、一つの取組みで大きく変化するものではなく、スモールステップで積み重なっていくと考えるため、今後、当事者との出会いを通した学習の検討が必要である。

　自分とのちがいについて学んできたことで人間関係にも変化が見られ、これまであまり関わっていない子ども同士が関わるようになった。

技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる」
事業開始時：97.7%　⇒　現在100%
【児童の変容の分析】
　遅刻で学習が進んでいなかった子どもへ、ページ数を伝えたり、聞けていない指示を伝える様子があった。